

富山市総合計画審議会第6回潤い部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第4委員会室

日時：平成18年11月14日（火）

9:55 ~ 11:35

1 開会

2 部会長あいさつ

中村部会長あいさつ

本日は、前回の意見に対する事務局の対応案を検討していただくとともに、部会で審議いただく最後であるので、言い残した事、審議し残した事を活発に述べていただきたい。

3 議事

- ・総合計画前期基本計画（案）についての意見と対応（案）について
- ・市民に期待する役割について

< 概要 >

（部会長）事務局から総合計画前期基本計画（案）についての意見と対応（案）及び市民に期待する役割についての説明をお願いしたい。

（事務局）総合計画前期基本計画（案）についての意見と対応（案）及び市民に期待する役割について説明

（委員）対応案の33、34番の「事業者は景観に関する法令を遵守し、地域の構成員として、景観の保全に努める」は逆ではないか。「市民は、事業者に対して法令を遵守させ、景観を保全させる」というふうに強く言う事ができないか。緩和すべき条例もあるが、強くすべき条例もあるのではないか。業者の利益追求型を押さえ込む必要もあるのではないか。

（事務局）市の施策としてそこまで書いていいものかとも思う。

（委員）主導権を住民に置きたいということである。この文章を見ると、業者の努力でしかない。実行させる強いものがあってもよい。施策の方向で述べてもよい。

（事務局）法令を遵守することは当然である。異論はあるだろうが市民や事業者の役割以上のことを述べるのは、現状のスタンスでは難しいと考える。

(部会長) 事業者も一市民としての役割を果たして欲しいということである。施策の中で反映できるところは反映していただきたい。

(委員) 市民と並列で、自覚を持ってもらいたいという事ではないか。

(部会長) 事業者も地域社会やコミュニティで生きていくという姿勢が欲しいという事である。既存の法令を遵守していても不都合が出てくるという事であれば、条例や法令で対応していかななくてはならないのだろう。

(事務局) 答申の中に入れられるかもしれない。

(部会長) 前回の部会でも発言があったように、事業者の役割についても触れていただけだと思います。

(委員) 10年間の計画だが、10年後にやることと来年やることの優先順位や仕分けをどのように行っているのか。

(部会長) 先般の基本構想で10年の基本的な都市像を考え、前半の5年でこれだけの事をやっていきますというのがこの基本計画である。各年度の実施計画でもう少し具体的な姿を現してくると考えている。

(委員) 森林は荒れ放題になっている。早急にやるべき事は着実にやっていくべきである。また、高齢者・障害者含めて施設ではお金がかかる。法では施設から外へ出す事ばかり考えているのではないか。医療負担がかさみ地域でも生活できなくなるのではないか。これも早急に対応すべき課題である。

(部会長) 今回書き込んである事は全て重点事項である。来年から何を行うかは、国の法整備や県との関係、市の財政などをもとに、実施計画に反映させていく事が基本である。

(委員) 大長谷地区の人口減少が著しい。前までは若い人がまちへ出て年寄りを呼んでいたが、今は若い者の負担が増えて年寄りに来て欲しくないと言っている。冬の雪の問題も心配である。

(部会長) それこそ、中山間地域の問題ではなく、いたる所で起こっている問題であると思う。それに対する今回の総合計画のひとつの考え方が、中山間地域は中山間地域として面倒を見ていきながら、全体としてコンパクトなまちづくりを推し進めていくという話だと思う。

- (委員) 中山間地の問題については、別の大きな問題として捉えるべきではないか。中山間地の補助金のあり方についても見直すべきと考える。
- (部会長) 国の補助金とその使い方の問題であると思う。今後10年を見たとき、委員のおっしゃるとおり、今までの形では対応できなくなる。中山間地域に限らず、行財政の問題として協働部会で取り上げていく。
- (委員) 農業の補助金は、農家のためになっていないのではないかな。
- (委員) 中山間地の直接払いでやっと息をついている状態である。幅広い使い方ができる補助金である。
- (部会長) 国の補助金にしても用途、使い道を緩めてきている。地方の考えで使えるようになっている。企画・視点が大事になってきている。もらったお金をどんどん使っていると思われるようでは不本意である。そこを考えるのが、今回の総合計画の柱であり、協働や市民参画である。
- (委員) 都市と中山間地域が交流する具体的なメニューの例などがあれば良い。どんな人がどんな協力ができるのか例示してもらえれば、自分の役割が分かり、ビジュアルで示せば全体も分かる。
- (部会長) 具体的なプロジェクトのフロー図や一般的な概念図をイメージする事はなかなか難しいと思うが、この総合計画策定の過程自体も市民説明会を開いたり、部会を開いたりする作業の上に成り立っている。
- (委員) 県や市独自の農業形態を守るべきである。採算性の問題ばかりではない。
- (部会長) 採算性で計れない、それを超えた価値をどう守るかが問題という事か。
- (委員) 人口流出に早く手を打つべきである。
- (委員) 中心部も過疎化している。維持のできなくなった空き家が増えている。除雪後の雪捨て場をどうするか、そこが示されていない。
- (部会長) 行政も市民も協働についてお互いが手探りの状態ではないか。
- (委員) 中心部のまち並みをどうするかなどの基本的なイメージ、都市計画図がないのではないかな。この計画にはメインになる大きなものが無いのではないかな。
- (委員) 協働に対する意識改革が必要ではないかな。

(部会長) お互い任せっぱなしになる事もいけないし、私が私がでは立ち行かない。

(委員) 言葉だけでなく、これが動いた時にプロジェクトとして目玉となるものが欲しい。

(部会長) 成功事例が欲しい。富山方式のようなものが出来れば良いのではないかな。

(委員) 税金を上手に使う方法はないか。企業は海外投資するばかりでなく、もっと地元で金を落とすべきである。例えば、電力など水をもとにした企業は森の整備など地域に還元すべきである。

(委員) 148頁の現状と課題について、「公共交通の利便性が低い」地域の人たちは仕方なく自家用車を使っている。利便性の高い人たちの意識を変えるべきである。

(委員) 今までの公共交通機関と違う方法も考えるべきではないか。雪を考えれば、モノレールなどはどうか。5年先に限らずもっと先に進むプランもあって良いのではないかな。

(部会長) ここの表現は、公共交通の便利な地域の人には利用してくださいというメッセージではないか。公共交通を利用しにくい地域では道路網を整備していかなければならないというふうに合わせて考えている。

(委員) 最終的には人づくり、リーダーとなる人を育成する事が必要である。何でも行政頼りではいけない。そのためには成功事例をアナウンスする必要がある。

(部会長) やり方、進め方が今後大事となる。

(委員) 城址公園の中に、薬草園を造るという話はどこから出たのか。

(事務局) 城址公園整備計画の委員会の中で出されたものである。観光の目玉としての位置付けもある。

(部会長) 事業の目的と成果を出す事が必要。市民に対する説明責任を果たす事が大事である。

(委員) ミュージアムバスについて、人が少ない時に学校単位で利用するなどの活用のメニューが必要ではないか。

(委員) 駅前の観光案内場でもあまり人を見ない。宣伝が下手なのではないか。

(部会長) これこそ行政・市民と事業者の協働が大事な分野ではないか。

(部会長) 他にご意見はないか。先日、市民説明会があった。高齢者に関する表現や指標の達成後の具体的イメージが見えない等の意見があった。

本日で部会は最後となるが、何かあれば全体会でもご発言願いたい。

4 閉会

(以上)